

■米国：オバマ次期大統領、新政権のエネルギー・環境関連の閣僚人事を発表

オバマ次期大統領は 2008 年 12 月 15 日、エネルギー省（DOE）長官にノーベル物理学賞受賞者で、ローレンス・バークリー国立研究所（LBNL）所長のスティーブン・チュー氏を指名した。同氏は 2004 年以降、LBNL 所長として、地球温暖化対策としての代替エネルギー技術（先進型バイオ燃料、人工光合成、その他太陽エネルギー関連）の研究開発を進めてきた。原子力に関しては、温室効果ガス削減やエネルギー・セキュリティ確保の観点からその技術を支援する意向である一方、ユッカマウンテン処分場の建設については放射性廃棄物の長期的安定保管を懸念して懐疑的な見方をしている。環境保護局（EPA）長官には、ニュージャージー州環境保護局長官のリサ・ジャクソン氏、ホワイトハウス環境問題諮問委員会委員長には、ロサンゼルス市エネルギー環境副市長のナンシー・サトリー氏を指名した。ホワイトハウス内に新設されたエネルギー・気候変動・環境政策の調整組織のトップに、前 EPA 長官のキャロル・ブラウナー氏が指名された。ジャクソン、サトリー、ブラウナーの 3 氏はいずれもクリントン政権時代に、EPA の主要ポストを務めた。